

# 自己教育力を育むための1人1台端末活用に関する研究

—「ICT表現スキル」の向上を図る授業実践を通して—

情報教育室 渡部 浩二 加藤 憲司 村上 貴彦  
石崎 正人 山之内 孝明

## 1 研究の目的

予測不可能なこれからの情報化社会を生き抜くための学力・行動力を身に付けさせるには、確かなICT活用スキルのもとで、自己教育力や協働力を育むことが重要である。本研究では、愛媛県ICT教育推進ガイドラインで示されているICT活用スキルの中の「ICT表現スキル」に着目し、その向上を図る授業実践を行った。その過程で、子ども自ら課題を見付け、解決に向けて粘り強く取り組む「自己教育力」を育むための、1人1台端末の活用について研究する。

## 2 研究の内容

### (1) ICT活用についての調査

研究員が担当する小学2年生35名と中学2年生68名を対象に、「考えの表現」と「プレゼンテーション技術」について、4件法によるアンケート調査を行った。結果から、ICTを活用してプレゼンテーション資料を作成したり発表したりする経験が少ないことが、明らかになった。そこで、授業実践の中でICT表現スキルの向上を図る活動を取り入れた。

### (2) ICT表現スキルに関する評価モデルの作成

授業実践に当たり、ICT表現スキルの達成度を教員が適切に見取り、個別指導や授業改善につなげるとともに、子どもが自分の活動を理解し、振り返り、学習の調整を図りながら学習を進められるよう、評価モデルとしての達成度基準を作成し、研究員に提供した。

### (3) 自己教育力の高まりを見取る方法や視点

自己教育力の高まりを見取る方法として、子どもが自分自身と対話し、自己評価・自己統制ができるように、振り返りカードを用いて、数値や記述で学習の取組状況などを振り返るようにした。振り返りの方法については、子どもの発達段階を考慮し、小学校では紙媒体のワークシートに記入する方法を、中学校ではクラウド上のアンケートフォームに入力する方法を用いた。

### (4) 研究員による実践

#### ア 東温市立北吉井小学校 伊藤 芽久美 教諭による実践（小2）

国語科「スイミー」と生活科「もっとなかよしまちたんけん」の単元で、ICT表現スキルを育成する実践を行った。授業での活動の様子や振り返りカードの記入内容から、ICTを活用して自分の思いを絵で表現したり、相手を意識して分かりやすい資料づくりに努めたりするなど、学習活動を楽しみながら意欲的に取り組む子どもの様子が見られた。

#### イ 松前町立岡田中学校 松永 麻由 教諭による実践（中2）

外国語科の授業で、単元の終末にリテラチャー・サークルの活動を取り入れ、ICT表現スキルを育成する実践を行った。Microsoft365のアプリを用いて、自分の伝えたい内容を英語で表現したり、マインドマップを活用して考えを整理し、キーワードの表示を工夫したりするなど、ICTの特性を生かして表現することを楽しむ子どもの様子が見られた。

## 3 研究のまとめ

実践後のICT表現スキルに関するアンケート結果では、小・中学校とも、実践前に比べて数値が大幅に上昇した。これは、子どもが1人1台端末を活用して、自分の考えを整理したり、相手に分かりやすい表現になるように工夫したりする活動の成果である。そして、子どもに任せる部分を保障することや、振り返りの場を確保し、子どもが自らの学びを省察して学習活動に生かすこと、試行錯誤できる場を設けることで、子どもの学びに対する意欲を喚起し、「自己教育力」を育むことにつながることを確認できた。